

第7回 経済学部社会イノベーション学科4年 田中千裕 (2020.8.20)

100周年を迎える経済学部の伝統ある歴史の中で、2017年度の社会イノベーション学科の開設の年に入学しました。これまで諸先輩方のご指導のもと、様々な事にチャレンジしてきました。

二年時の学科選択の時には、フィールドワークを通して実践的な課題解決に取り組みたいという思いから、迷わず社会イノベーション学科に入り、第一期生となりました。後期には、大分県の給食メニュー「トリニータ丼」を活用して地元のプロサッカーチーム「トリニータ」の集客拡大に取り組みました。2018年10月、ホームグラウンドでは、一杯650円で設定、280杯限定として販売し、一時間半で完売させました。食材調達や広告宣伝、調査、販売や当日の運営など、皆の協力で目標達成しました。この経験を通して、課題に対して多角的な視点からアイデアを出し合い、解決に向けて多くの人と関わり合いながら協力する楽しさを学びました。

三年時からの本格的なゼミ活動では、大分大学経済学部の先輩である渡邊博子教授とともに、「フィールドワークを通して考える社会課題とその解決のためのイノベーション」というテーマのもと、地域の問題や困りごと、企業の課題に対し、現状を調査し、自由な発想からアイデアを出し合い、議論しながら実行しています。

また、ゼミ活動では2019年10月22日に100周年記念イベントとして「大分の歌音楽祭」を開催しました。四極会事務局の先輩など皆さんにご協力いただき、ゼミ生が主体となって企画・運営を行いました。南蛮コール、関の鯛釣り唄・踊り保存会や津久見音楽友の会の皆様、歌声喫茶の波多野典子先生などにご出演いただき、大分に関する音楽を通して大分愛をより深めてもらえるイベントになりました。2020年の今年は、10月17日(土)に祝祭の広場で開催予定です。三年生の後輩ゼミ生たちが主体となって、若者から高齢者まで全ての人に楽しんでもらえるような内容を準備しているのでぜひ遊びに来てください。

大分県竹田市長湯温泉地区の地域活性化活動では、2020年1月23日に竹田市からゼミ生11名が長湯温泉PR隊に任命され、炭酸泉という地域資源をいかに活用するかなど地元の人とともに魅力発信に取り組んでいます。この活動が認められ、2019年度の経済学部特別賞を受賞しました。今後も後輩ゼミ生たちに引き継ぎながら一緒に活動していきます。

四極会の桃優会では、高野浩子会長をはじめ女性の先輩方からご指導いただいています。社会人としてのマナーや、先輩方をロールモデルとして、私自身が今後どのようなキャリアデザインを描くべきか考え学ぶ貴重な機会になっています。

私は、2021年4月には福岡の地元新聞社で新社会人を迎えます。これまで多くの先輩方に教えていただいたことを糧に頑張りたいです。また、今後も桃優会などに参加して、先輩方に多くのことを教えていただけてきたように、これからは私も後輩たちにアドバイスしていきたいと思っています。



2020年1月23日 長湯温泉 PR 隊任命式
前列左端が筆者



できたてほやほやの長湯温泉地区 PR ポスター
(社会イノベーション学科渡邊ゼミ宇都宮万里作)